



旭地区にある「押井の里」は縄文土器が出土する遺跡があります。つまり、3,000年前から住み良いところでした。それがこの50年で消滅の危機に。辰吉さんたちは考えに考え抜き、「農の営みを諦めた時、集落は消滅に向かう」と、農を守るための「源流米ミネアサヒプロジェクト」を開始しました。

そして《自給家族》という仕組みを考え出しました。生産者と消費者がひとつの家族としてお米を自給する仕組みです。詳しくはWebサイトをご覧ください。そこにある動画は感動的です。(左下のQRコード参照)

またミネアサヒは「幻のお米」と呼ばれ、ほとんど流通しておらず自給に向いていました。



企画は当たりました。家族募集はすぐに集まりました。次は他の地域に広げることです。《自給家族》はMYパワーの理念、目的とも同じです。しっかり連携をしていきます。なお、この取り組みを行う「押井営農組合」の施設は、電気との切り替えもいただいており、主要メンバーはMYパワーの株主でもあります。(経営企画部：萩原)

メンバー紹介 ③ 受け入れて的確に表現 村田 元夫 (経営企画部/地域課題解決部 他)

およそ4年前、MYパワーの生みの親の一つである「三河の山里課題解決ファーム」に参画。そして豊田市、中部電力との2年の協議の結果、MYパワーが難産の末に誕生し出港することができました。村田さんは岸壁から船出を見送るつもりが、見送りのテープは太いロープに置き換わり、MYパワーという船に引っ張られて乗船し、現在はMYパワーの事業にどっぷり浸かっています。

元々(現在も)コンサルタント会社の社長。「おいでん・さんそんセンター」の理事も務める三河の山里が大好きな人です。豊富なコンサルの経験と、膨大な読書量から繰り出される新しいアイデア。それを文字化して委託事業の申請書までを書き上げる能力は私たちのメンバーの中でピカイチです!

MYパワーは地域課題解決のお手伝いを目的に作られた組織です。多様な地域課題の解決には、地域の方々との信頼を醸成する対話が基本です。ある人は「村田さんはしゃべらないコンサルタントだ」と評します。しかし一度口を開けば、その内容は相手の気持ちを汲んだ的確な言葉となって表れます。還暦を過ぎたとは思えないその容姿と頭脳明晰さが、MYパワーの組織の基礎づくりに貢献しています。



(文責：代表取締役 早川富博)

◆ 編集後記～ MYパワーの本四季報は今回が「vol.6」。先回の「vol.5」が発行された後、「あれ??」と思ったのですが「vol.4」が存在しません。そう、単なるミスです… もしも「vol.4」をお探しの方が居ましたらすみません。誤字脱字などないように読み重ねていますが、まさかそんな所に落とし穴があったとは。(経営企画部/広報担当：庄司)



株式会社 三河の山里コミュニティパワー

〒444-2351 愛知県豊田市岩神町仲田20 足助病院内(サテライト・サロン)

Tel.0565-61-2773(たすけあいプロジェクト事務局) Fax.0565-61-2772

http://www.my-power.jp E-mail:info@my-power.jp



地域の自主財源づくりをお手伝いします ～ おたがいさま電力 ～

2021年5月号では、<「地域の人手と、地域のお金で」>ということをお話しました。地域の課題解決を進める中心になっていただくのは地域のみなさんです。そのための道具としてMYパワーを使っていただきたいという話をさせていただきました。今回はそれを実現するための、具体的な方法として「おたがいさま電力」という考えをお伝えします。

例えば、自治区などの地域単位で電気をMYパワーに切り替えることをしていただきます。そこで得られた利益(そんなに多くはないですが)は、地域で決めて自由に使うことができます。例えば、草刈りで困っている地域は草刈りの費用に充填したり、積立ててまとめて神社やお社の修繕費用に充てることもできます。すなわち、地域の自主財源ができるのです。しかも、電気は基本的にずっと使いますので、一度電気の切替えを行っていただければ、ずっと自主財源が得られ、地域の課題解決に充てていくことができるのです。

山村地域では今後、地域の主要な担い手の高齢化によって、これまでできていた活動が難しく(中面に続く)



スタッフのひとこと

本誌のメンバー紹介欄で私の番になり、「自分で自分の紹介文をどう書いたらいいんすか?」と言い漏らしたら、社長の早川さんが書いてくれることに。すぐうれしかったんだけど、過分で実態が追いつかない!(村田)